

表1 計画の要点等の予測問題と解答例 ⇒丸暗記して下さい

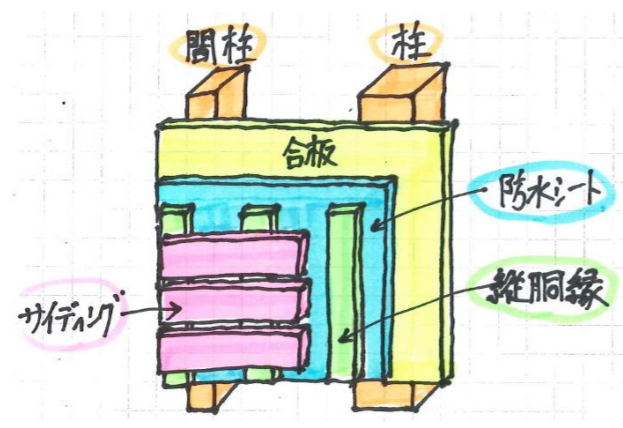
※赤枠は予測課題の「計画の要点等」の解答

予測問題	解答例	補足説明
建築物へのアプローチについて、工夫したこと	事務所は、前面道路西側、住宅は前面道路東側から、それぞれ独立してアプローチを計画し、その間に駐車スペース、駐輪場をそれぞれ計画することで、動線が交差しないよう両者を明確に分離し、各部分のプライバシーに配慮した。 また、屋外スロープを玄関ポーチの正面に設けることで、駐車スペースからスムーズに玄関に移動できるよう工夫した。	事務所と住宅へのアプローチをそれぞれ明確に分離計画することで動線交差しないようし、それぞれに屋外スロープを玄関ポーチの正面に設ける等の工夫で高得点を狙うようにした。
建築物の配置計画について、工夫したこと	建築物の配置計画は、北側道路に対する駐車スペースの確保と、南側各室への十分な最高確保のための隣地との距離を確保するため敷地中央部(若干南寄り)として、建物形状を東西方向に長く計画した。	北側道路からの建物距離と、南側隣地との距離を確保するために建物形状を東西に長い長方形として配置した。
事務所部分の計画について、工夫した点	事務所部分の事務室および打合せ室は、採光を取り入れやすい南側に配置し、その前面には樹木の緑を感じながら作業および打合せができるように広葉樹を設けた。なお、打合せ室は、移動距離を短くするため、玄関から近い位置に計画した。	事務所部分は、建物の西側に集中させ、更に居室は全て南側に向けて採光や広葉樹による自然との環境確保を重視した。
住宅部分の計画について、工夫した点	1階居間、祖母室、2階夫婦室、子ども室の全ての居室は、十分な日照が得られるよう南側に計画した。1階の居間と祖母室と屋外テラスは、隣接させてそれぞれ直接行き来できるようにすることで、家族の団らんが取りやすい環境になるよう計画した。	住宅の居室は、全てを南面に配置して、採光や自然及び屋外テラス等との一体性を重視した。
祖母室の計画について、工夫したこと	祖母室は、居間および屋外テラスと隣接させて、それぞれに直接行き来できるようにすることで、家族との団らんが取りやすい計画とした。また、玄関や便所、洗面コーナーを近傍に配置することで、祖母の生活動線を短くし、日常生活の利便性が高まるように工夫した。	祖母室は、居間や屋外テラス及び便所等への動線が最短となるように計画した。
打合せ室の計画(建築設計作品の展示等)について、工夫したこと	打合せ室は、南側に配置して、その前面に広葉樹を設けることで自然を感じるように計画した。また、打合せ室内の入口左右には、作品模型と作品パースを展示して顧客へのプレゼンテーションを兼ねる計画とした。なお、打合せ室は、来客者が短い動線となるように玄関から近い位置で計画した。	打合せ室は、道路側に計画する場合もあるが、本計画では、南側に配置し広葉樹による自然環境を重視し、作品等を入口左右に計画し、顧客へのPRを強調した。
バリアフリー(高齢者利用等)の計画について、工夫したこと	屋外スロープは、高齢者及び車いすの利用に配慮して、勾配1/12以下、スロープ幅の心々1,820mmとした。 更に、建物内の1階は、高齢者等が利用しやすいように、段差を2cm以下とし、便所の扉を横開きとした。	バリアフリー(高齢者及び車いす利用者)の利用に配慮して、屋外(スロープ)と室内(段差&便所扉)
敷地内の外構計画について、工夫したこと	外構計画は、事務室の前に落葉樹を植えて、四季を感じる自然環境を得るとともに、夏の日差しを防ぎ冬の日差しを取り込むなど省エネルギー性にも配慮した。また、屋外テラス使用時のプライバシーに配慮して、打合せ室から目隠しになるように植栽を計画した。	外構計画では、①南面の植栽による利点、②玄関アプローチの家の印象を与えるデザインなどが記述内容となる。 ここでは、①の落葉樹(省エネ関連)と植樹(プライバシー対応)の2つを書いて高得点が取れるような一例を示した。
建築物の環境負荷低減(省エネルギー等)について、工夫した点	全ての居室は、南面に配置し開口部を設けることにより、日差しを取り込み、冬季の暖房によるエネルギー使用量を低減させた。 更に、居室の窓は、Low-E複層ガラスとすることにより、夏季の窓から入る日射量を抑制して空調負荷を低減させた。	省エネルギーに焦点を当てて、冬季および夏季の両方の対策を全居室で講じることを提案し、高得点を狙った。
建築物の外壁の仕上げについて、工夫したこと	外壁の仕上げ材量は、デザインが豊富でリフォーム性に優れ、対候性、耐水性、防火性に優れている窯業系サイディングとした。	代表的な外壁の仕上げは、①窯業系サイディング、②モルタル塗りの2種類である。 下記に、その2種類の断面構成図を示す。試験解答では、どちらを書いても正解であるが、事前にどちらを書くかを決めて暗記するほうがよい。なお、戸建住宅のタイル貼りは、一般に下地を②のサイディングとして、その上にタイルを接着剤貼りとするのが主流である。

【外壁仕上げ】①窯業系サイディング

合板、防水シートの次に、空気層を設けるため縦胴縁を設置して、その上にサイディングを設ける。

※サイディングとは、外壁に張って使用する仕上材の総称であり、石渡セメント版や金属板などのパネル成形したものである。耐候性、耐水性、防火性に優れている。



【外壁仕上げ】②モルタル塗り

木摺板、防水シートの上に接着しやすいようにラス網を設置してからモルタルを塗る。このモルタルの上には、仕上げとして塗料やタイル等を用いる。

※モルタル外壁は、左官仕上げの一環として住宅の不燃化のため推進され普及してきた。無機材料による継ぎ目のない一体仕上げは、意匠性の他、耐久性、防火性、面剛性としての耐震性に優れている。

